

株式会社モリモト医薬 主催

大阪製剤技術セミナー「経口製剤新薬開発セミナー&交流会」のご案内

—イノベーションと新薬開発—

開催日：2012年11月7日(水)

場 所：株式会社モリモト医薬 大阪研究センター 4Fにて

参加費：無料

出展費：5000円(発表企業1社様につき) 宜しくお申し込み申し上げます。

受 付：15:30~16:00

<スケジュール>

16:00 ご挨拶 代表取締役 盛本修司

16:10~ 特別講演

1. 元帝国製薬USA 日比 徹 Boys and Girls Be Ambitious !!
若き製剤研究者への提言/6年半のアメリカ研究経験より
2. 元武田薬品 豊田 繁 タケプロンの開発秘話
3. (株)モリモト医薬 盛本修司 PH1向け経口簡易製剤化技術によるイノベーション

(休 憩) . . . パネル展示

17:20~

パネル口演 5分×15社(予定) 4分+1分質問
モリモト医薬 大阪研究センター紹介、見学等

(休 憩) . . . パネル展示

19:00~ 交流会懇親会

20:30 中締め

(ご参加予定企業) 敬称略・調整中、さらに募集中

<製剤研究・技術支援企業>

樋口商会、旭化成ケミカルズ、菊水製作所、大同化成工業、ホソカワミクロン、ミューチュアル、奈良機械製作所、岡田精工、ツー・ナイン・ジャパン、ファーマシーズクリエート、シャープマニュファクチュアリング他

<製薬企業>

武田薬品工業、塩野義製薬、大日本住友製薬、アステラス製薬、田辺三菱製薬、大塚製薬、大鵬薬品工業、日本新薬、日本たばこ産業 他

お問合せ・連絡先
株式会社モリモト医薬 大阪研究センター
営業部 山口好彦
TEL06-6476-5572 FAX06-6476-5573
Mail:yamaguchi-yo@m-ph.co.jp

<アクセス>

株式会社モリモト医薬 大阪研究センター

〒 : 555-0012

住所 : 大阪市西淀川区御幣島5丁目8-28

電話 : 06-6476-5572 FAX : 06-6476-5573

ホームページ <http://www.morimoto-iyaku.jp/> 地図

も合わせてご覧下さい。

● JR 大阪駅から

1. JR 神戸線 塚本駅下車 徒歩約 20 分 (タクシーをご利用下さい)
2. JR 神戸線 尼崎駅で JR 東西線に乗換え、御幣島駅下車 3 番出口 北へ徒歩約 10 分

● JR 北新地駅から

1. JR 東西線 御幣島駅下車 3 番出口 北へ徒歩約 10 分

● JR 新大阪駅から

1. JR 神戸線 塚本駅で下車 徒歩約 20 分 (タクシーをご利用下さい)
2. JR 神戸線 尼崎で JR 東西線に乗換え、御幣島駅で下車 3 番出口 北へ徒歩 10 分

● JR 御幣島駅から 3 番出口

1. 御幣島筋沿いに徒歩約 10 分 「ジャガーの中古車センターの裏、公園の横の 4 F 建て建屋」
2. 歌島橋バスターミナルから大阪市バス「38 竹島 3 丁目」行に乗車、御幣島住宅前下車 徒歩約 3 分

● JR 塚本駅から タクシーをご利用下さい (約 5 分)

ご挨拶

株式会社モリモト医薬
代表取締役 盛本修司

製剤研究で新薬開発に携わる皆様
製薬研究技術を支援するキーテクノロジーを所有する、さらに開発中の会社の皆様

「イノベーションと新薬開発」

新薬がなかなか出にくい状況の中、医療費負担の高騰からジェネリック薬への追い風の制度など、ますます新薬開発環境は厳しいものがありますが、だからこそ、イノベーションとアイデア・技術の結集が必要と感じています。さらに日本発の新製剤技術による新薬創出につなげたいとの思いは皆様一致のところと思います。

わたくしは、武田薬品で20年間製剤研究活動を行い、モリモト医薬で8年目となりますが、現在は固形剤の新剤形技術のイノベーションを「GT剤・GT技術」で目指しています。昨年从今年にかけて海外発表を行いました、いずれも好反響を受けました。欧州MCA、米国FDAからも高評価を受けました。さらに10月末新潟での日本医療薬学会においても、展示での服用調査において病院調剤薬局の現役薬剤師100名以上の方からGT技術に対する良好な評価をいただき、将来性を確信しています。GT剤・GT技術は、これまでのすべての製剤技術を活用しさらに発展させる世界初の一つの製剤・包装・服用の新テクノロジーであります。

病院や薬局でのニーズ・要望を徹底的に調査し、高齢化社会・介護社会到来に備えての、さらには大災害を想定しての必要な技術として、GT技術を推進していく所存です。

新薬創出にも、GT技術創出にも、必要となる、情報・アイデア・人材を融合し活用することが重要です。今回、当社は大阪に「大阪研究センター」を開設し、来年に大量治験薬工場付設を計画しておりますが、同時にここを、固形製剤新技術の情報交流・発信、人材交流の場としたい、その第一歩としてこのような企画をいたしました。大阪製剤技術セミナー「経口製剤新薬開発セミナー&交流会」を、11月7日に、モリモト医薬新社屋4Fセミナールームにて開催いたします。

特別講演として3題、1題目は、アメリカでの長年研究活動をされた元帝国製薬USAの**日比徹**先生より、「**米国研究経験から若手研究者に向けての提言**」を、第2題目は、武田を長期に渡って支え続けるブロックバスター、「**タケプロンの創生の秘話**」を元武田薬品の**豊田繁**先生に、第3題目は、わたくし**盛本修司**より、「**GT剤技術**」のP1臨床用サンプル適用によるドラッグラグ対策、研究期間短縮テクノロジーの紹介をさせていただきます。

パネル口演として製剤研究・技術支援企業10社以上による、パネル新技術紹介口演とミニ展示、研究建屋見学のあと、立食での**技術・人材交流および開所記念パーティ**を行います。

皆様、万勝繰り合わせのうえ、ご参加をお持ちしております。

特別講演内容

講演 1 日比徹

講演演題： Boys and Girls Be Ambitious !!

若き製剤研究者への提言／6年半のアメリカ研究経験より演者紹介：

- 所属：合同会社 Pharma Seeds Create 代表 日比 徹
- Email address： thibiglobal@iris.eonet.ne.jp

演者経歴：

京大薬学部修士昭和49年(1974年)終了し(薬用植物科学専攻：基本的に有機合成化学)、宇部興産中央研究所新農薬研究室に配属され新規殺菌剤・除草剤の合成研究(1980年迄)、その後家庭の事情で帰阪し1981年から日本チバガイギー製剤研究所(宝塚)に転職しここから製剤研究を開始。その間、カンザス大学のタケルヒグチ教授の下に1年留学&アメリカチバガイギーの製剤研究所で半年研修を経験、その後、帝国製薬・日本たばこで製剤研究・製薬工場のQA/QC(医薬品製造管理者)等を経験し、2004年から単身で約6年半帝国製薬の米国子会社 Teikoku Pharma USA で製剤研究開発・QA・ベンチャー企業のMANAGEMENT等を経験。昨年2011年2月に帰国とともにTeikoku Pharma USAを退社しCMCコンサルタントとして独立し現在に至る。

2. 豊田繁 (現在：武田科学振興財団 国際部長)

講演演題：日本が創出した過去最大の世界戦略商品「タケプロンその成功の秘話」

概要： 創薬イノベーションの現状と課題？、世界の製薬企業の昨今の研究戦略状況
タケプロン研究の秘話、研究経緯(特許権者：3名による)、開発秘話、販売秘話

演者経歴

1. 武田薬品海外開発部門でのLansoprazoleの3極での申請支援業務：課長として。1990-1993
2. 国際本部・PM部で初代Lanzoprazoleのプロダクトマネージャーとして第1回国際シンポジウム(1992：アテネ)の企画・実施、同じく第1回Lanzoprazole International Marketing Strategy Meeting (ニューオリンズ)の企画・実施。1993-1994
3. プロダクトチャンピオンとして、Indevus社(ボストンのベンチャー開発会社)を相手に経口シチコリン導入の契約デール(契約案件の遂行)の完遂、また、大日本を相手にマイルストーンをゼロでモサプライドの契約交渉での条件交渉の成立。1999-2001 研究渉外Gでベンチャーへの投資企画 2002 - 2005

現所属、武田科学振興財団、大阪市淀川区十三本町2-17-85 (〒532-8686)

講演3 (株)モリモト医薬 盛本修司

講演演題： PH1 向け経口簡易製剤化技術によるイノベーション

錠剤・カプセル剤にも適用でき、さらに、処方化不要のGT剤 (Gel Together、Good Taste) の技術を紹介する。少量の新規化合物があれば、短期間でPH1等の治験薬サンプルを開発できる新技術である。その後に錠剤カプセル剤へのつなぎも可能であり、そのままGT剤としての商品化も可能である。ドラッグラグ対策、また、高齢者・幼児小児向け、嚥下困難者向けにも最適な剤形である。本技術のキーポイントおよび応用例についても紹介する。

演者経歴

1982年 京都大学工学部科学工学科卒業、プロセスシステムエンジニアリング (高松研究室)

1982年ー2000年 武田薬品 製剤研究所 注射 (10年)、固形 (5年)、新剤形 (3年)

出願特許 70件以上、開発品目：10 (タケロンOD錠、リュプロンデポ、アリナミンEX、パンスリン他)

2000年ー2002年 天津武田薬品 工場長

2002年 川田 (上海) 有限公司医薬事業部長、2004年川田 (天津) 国際貿易有限公司 社長

2005年5月 盛本 (天津) 国際貿易有限公司 総経理 (中)

2005年5月 株式会社 モリモト医薬 代表取締役 (日)

2008年4月 GT剤開発開始、2011年5月 GT剤発表、2012年10月 GTパック発表